

世界経済フォーラム報告「グローバルリスク2008」(2008年1月9日)の概要 (食料関連部分要約)

世界の経済社会に影響する4つのリスク

1. 金融システム

2. 食料安全保障

3. サプライ・チェーン

4. エネルギー

- 食料安全保障は、世界的・地域的な観点で主要なリスクの一つとして顕在化。これまでにない根本的な変化が起こっている可能性。
- これまで食料安全保障は、開発途上国の問題であったが、最近では、先進国にも波及しつつある。

世界の食料不足を加速化させる3つの要因

1. 人口増加とライフスタイルの変化

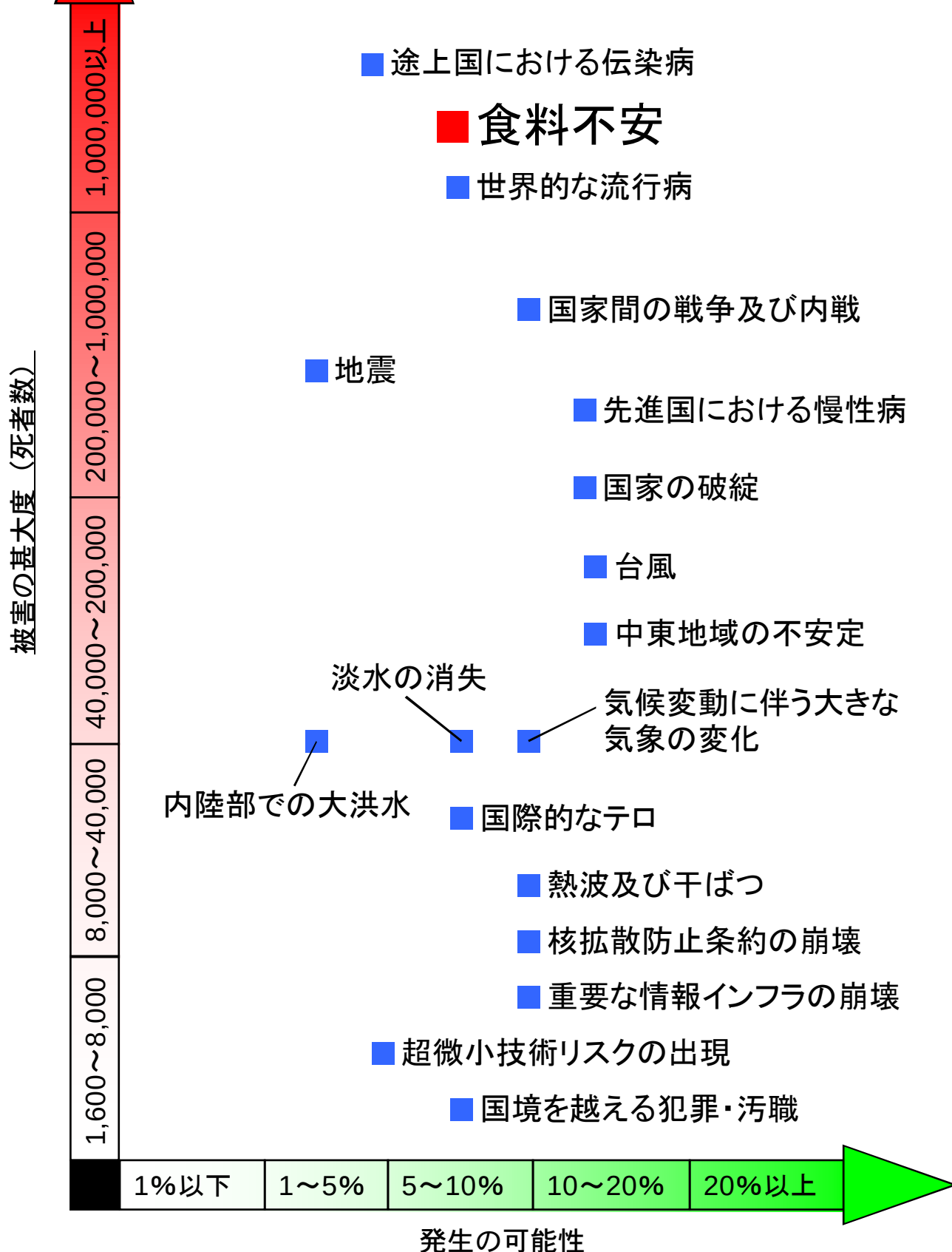
2. バイオ燃料

3. 気候変動

政策担当者は、食料を戦略物資として再考し、食料政策を見直す必要

資料: 世界経済フォーラム「グローバルリスク2008」を基に、
農林水産省で作成。

主要な世界のリスク (死者数による被害の甚大度)



注：世界経済フォーラム報告「グローバルリスク2008」を基に、農林水産省で作成。

世界経済フォーラムによるレポートについて

1 世界経済フォーラム

○「ダボス会議」を主催する民間団体（World Economic Forum、略称 W E F）。

- ・ジュネーヴに本部を置く独立の非営利財団。毎年、世界中の大企業約1000社の指導者、政治指導者(大統領、首相など)、選出された知識人、ジャーナリストが参加する会議を毎年主催。
- ・通常は、スイスのダボスで開催されるため、会議を指して「ダボス会議」と呼ばれる。1971年にスイスのクラウス・シュワブが「ヨーロッパ経営者フォーラム」として設立し、現在も理事長を務める。一年を通じて地域の会議がある。

2 レポートの概要

(1) 本年1月9日に公表されたもの。「Global Risks 2008」とのタイトルで、特に、金融システム、食料安全保障、サプライ・チェーン、エネルギーの4項目を世界規模の主要リスクとし、焦点を当てて分析。

(2) 食料安全保障（Food Security）については、

- トウモロコシ価格が1年間に50%、小麦価格も2倍に、また、在庫水準も過去25年で最低水準になっており、世界の食料供給は国際紛争や自然災害の影響を受けやすくなっていることから、世界的・地域的な観点で、主要なリスクの一つとして顕在化。
- 2007年の動向を踏まえ、食料安全保障の問題は、これまでの歴史の中で繰り返されてきた短期的な状況変化ではなく、不確実性が増しており、これまでにない「根本的な変化」が起こっている可能性にも言及。
- 食料安全保障は、これまでは、紛争や天候不順に直面する開発途上国の問題として捉えられてきたが、今後は、特に途上国に大きな影響が出るものとの予測を行いつつ、最近では、先進国にも波及しつつある問題との評価（英国や米国における食品価格の高騰を事例として紹介）。
- 主要途上国である中国やインドにおける食料供給に係る大きな問題を紹介し（中国における食品価格が17%、豚肉（70%）、野菜（30%）、油脂（34%）の価格高騰を紹介した上で）、中国の食品価格の高騰が世界的なインフレにつながる可能性に言及。

- 食料の安定供給は政権の安定に欠かせない要件となっているという政治的な影響を把握する観点から、
 - ① 食品価格の高騰に対するメキシコ、イタリア、インドの西ベンガルにおける市民の抗議行動等を紹介。
 - ② ロシア、エジプト、中国では、国内価格を抑制するため、政府が、国内生産等への補助政策や輸入関税の免除などを実施していることを紹介。
- 今後の食料安全保障の問題に大きく影響を与える要因として、人口増加とライフスタイルの変化、バイオ燃料、気候変動の3つに特に着目。
- 急激な人口増加（2050年までに約90億人まで増加）に加え、途上国におけるたんぱく質を多く含む食品の需要増等のライフスタイルの変化が食料需要の増大を加速化しており、人口一人当たりの世界の農地総量も大きく減少することが見込まれることを紹介。

【1950年から今日までの変化】

 - ・ 中国における人口一人当たりの肉類消費が4倍に拡大
 - ・ 人口一人当たり農地量が1エーカー（約0.4ha）から半減

このため、多くの専門家の意見では、現在の高い価格水準が継続するとの予測。
- バイオ燃料については、炭素の排出減、エネルギー自給の確保の観点から、今後も需要は増加するものとの見込み（米国では、2010年までにとうもろこし生産の30%をバイオ燃料生産に使用）。

一方で、バイオ燃料生産に伴う、①穀物輸出国と穀物輸入国（畜産生産国、最貧国）との間での立場の違いの拡大、②エネルギー自給と経済効率性向上の両立の困難さ等の問題についても指摘。
- 気候変動については、IPCCの予測として、栄養不足人口を大きく増加させる影響（2100年までに4千万～17千万人の増加）を生じさせるほか、気象災害の激甚化、降雨地域の変化等をもたらすものと予測。
- 結論として、高水準の食料価格が維持されるか、市場が対応し、価格が下落するかは不確実だとしつつ、こうした不確実性が大きいことを踏まえ、政策担当者が食料を戦略物資として再考し、政策を見直す必要性に言及し、近い将来、世界の食料供給システムの回復力が試されるような事態が発生すると予測。